

浜の活力再生プラン
(第 2 期)

1 地域水産業再生委員会 ID:1102024

組織名	深浦町深浦地区地域再生委員会
代表者名	会長 山本幸宏

再生委員会の 構成員	深浦漁業協同組合、深浦町、青森県西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所
オブザーバー	青森県農林水産部水産局水産振興課

対象となる地域の範囲及び 漁業の種類	定置網漁業者 2 名、一本釣り漁業者 7 名
-----------------------	------------------------

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>青森県日本海側に位置する深浦町中央部の「深浦地区」は、世界自然遺産白神山地のミネラル豊富な河川水が流れ込む海に恵まれ、漁業が盛んな地域である。漁業種類としては、定置網漁業、一本釣り漁業などが営まれており、四季を通じて漁獲される魚介類も豊富である。</p> <p>当漁協は、多数ある漁業種類の中でも水揚げの 5 割超を占める定置網漁業に大きく依存しているが、温暖化による高水温等海洋環境の変化による、魚類の回遊経路や回遊時期の変動により、漁獲量は年々減少している。一本釣り漁業は、近年久六島近海でのマグロ漁に恵まれているが、平成 30 年度から本格的に始まったマグロ漁獲総量規制により、操業形態の方向転換を迫られている。</p>
--

(2) その他の関連する現状等

<p>地域の主力産業である水産業を振興するため、町や観光協会等は、深浦産天然ワカメや深浦マグロなどの水産物を使用した商品開発（つるつるワカメやマグステ井など）を行うことで、街興し活動に取り組んでいる。</p>
--

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

--

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

<p>漁協および漁業者は活力ある漁村にするため、旬の漁獲物の魚価向上による漁業所得の増加を目指し、第1期浜プランに引き続き、以下の活動に取り組む。</p> <p>①定置網漁業者は、漁協が策定する「活魚、活け締め、神経締めの方法に係るガイドライン」に従い、漁業者による神経締め出荷等を継続し、魚価の向上を図る。</p> <p>②一本釣り漁業者は、久六メバル（ウスメバル）の鮮度保持の取組を継続すると共に、第2期浜プランからは新たに秋季のサワラの鮮度保持にも努め、神経締め手法も導入し、魚価の向上を図る。</p> <p>③漁獲物の販売促進活動計画を策定の上、上記①、②の取組で漁獲された魚介類の品質の良さの宣伝に努める。</p> <p>④全漁業者は、船底清掃や減速航行による燃油コストの削減を継続する。</p>

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

<p>漁協の行使規則、県海面漁業調整規則の順守、組合の資源管理計画による資源管理による資源保護に努めている。</p>
--

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>●定置網・一本釣り漁業者と深浦漁協は、以下の収入向上の取組により、定置網漁業にあつては基準年から1.4%所得向上を図り、一本釣り漁業にあつては体制づくりに努める。</p> <p>なお、漁協は、出荷時に以下の取組について随時確認し、必要に応じて漁業者を指導する。</p> <p>①定置網漁業</p> <p>漁協は、市場側からの要望を踏まえ、スズキ、ヒラマサにサワラなどを加え、「活魚、活け締め、神経締め方法に係るガイドライン」による講習会を開催し、漁業者は、それに参画して技術を修得し、魚体サイズ別に選別して、活魚、活け締め・神経締めに取り組む。また、活け締め・神経締めした水産物については、その後の魚体温度を一定温度となるよう下水を敷いた発泡箱への箱詰作業を迅速に行うことを徹底する。今後は市場の動向を見つつ、選別基準等を見直すことで出荷割合を順次増加させ、所得の向上を図る。</p> <p>②一本釣り漁業</p> <p>漁業者は、従来から対象としている当海域で漁獲されるウスメバルに加えて新たに秋季のサワラについて、漁獲後直ちに、海水氷と海水を1対3の割合で調製した海水を充填した魚倉に漬け込むことで、色味向上や魚体温度の一定温度以下での維持に取り組むほか、漁獲時に擦れのあつた傷物の除外選別を徹底することで魚価の向上を目指す。さらに一定サイズ以上のウスメバル、サワラについては、船上での作業ルールに従って神経締めを行うことで更なる差別化を図るべく、漁協の講習会に参加して技術の習得を図る。</p> <p>●販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、漁獲物の販売促進活動計画を策定の上、これに基づき、町や観光協会が開催するイベントに積極的に参画するなどして、県外から世界遺産である白神山地観光に訪れる観光客に対し、試食や直接販売により、上記①、②の取組で漁獲された魚介類の品質の良さの宣伝に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>減速航行による燃油コスト縮減に努め、定置網漁業、一本釣り漁業共に基準年の1%を削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p>

2年目（平成32年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>●定置網・一本釣り漁業者と深浦漁協は、以下の収入向上の取組により、定置網漁業にあつては基準年から2.7%、一本釣り漁業にあつては1.3%の所得向上を図る。</p>
---------------------	--

	<p>①定置網漁業</p> <p>漁協は、市場側からの要望を踏まえ、スズキ、ヒラマサ、サワラなどを対象として、「活魚、活け締め、神経締め方法に係るガイドライン」による講習会を開催し、漁業者は、それに参画して技術を修得し、魚体サイズ別に選別して、活魚、活け締め・神経締めに取り組む。また、活け締め・神経締めした水産物については、その後の魚体温度を一定温度となるよう下氷を敷いた発泡箱への箱詰作業を迅速に行うことを徹底する。今後は市場の動向を見つつ、選別基準等を見直すことで出荷割合を順次増加させ、所得の向上を図る。</p> <p>②一本釣り漁業</p> <p>漁業者は、当海域で漁獲されるウスメバルと秋季のサワラについて、漁獲後直ちに、海水氷と海水を1対3の割合で調製した海水を充填した魚倉に漬け込むことで、色味向上や魚体温度の一定温度以下での維持に取り組むほか、漁獲時に擦れのあった傷物の除外選別を徹底することで魚価の向上を目指す。さらに一定サイズ以上のウスメバル、サワラについては、船上での作業ルールに従って神経締めを行うことで更なる差別化を図るべく、漁協の講習会に参加して技術の習得を図る。</p> <p>●販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、漁獲物の販売促進活動計画を策定の上、これに基づき、町や観光協会が開催するイベントに積極的に参画するなどして、県外から世界遺産である白神山地観光に訪れる観光客に対し、試食や直接販売により、上記①、②の取組で漁獲された魚介類の品質の良さの宣伝に努める。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>減速航行による燃油コスト縮減に努め、定置網漁業、一本釣り漁業共に基準年の2%を削減する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>漁業経営セーフティネット構築事業（国）</p>

3年目（平成33年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>●定置網・一本釣り漁業者と深浦漁協は、以下の収入向上の取組により、定置網漁業にあつては基準年から4.4%、一本釣り漁業にあつては3.4%の所得向上を図る。</p> <p>①定置網漁業</p> <p>漁協は、市場側からの要望を踏まえ、スズキ、ヒラマサ、サワラなどを対象として、「活魚、活け締め、神経締め方法に係るガイドライン」による講習会を開催し、漁業者は、それに参画して技術を修得し、魚体サイズ別に選別して、活魚、活け締め・神経締めに取り組む。また、活け締め・神経締めした水産物</p>
---------------------	--

	<p>については、その後の魚体温度を一定温度となるよう下氷を敷いた発泡箱への箱詰作業を迅速に行うことを徹底する。今後は市場の動向を見つつ、選別基準等を見直すことで出荷割合を順次増加させ、所得の向上を図る。</p> <p>②一本釣り漁業</p> <p>漁業者は、当海域で漁獲されるウスメバルと秋季のサワラについて、漁獲後直ちに、海水氷と海水を1対3の割合で調製した海水を充填した魚倉に漬け込むことで、色味向上や魚体温度の一定温度以下での維持に取り組むほか、漁獲時に擦れのあった傷物の除外選別を徹底することで魚価の向上を目指す。さらに一定サイズ以上のウスメバル、サワラについては、船上での作業ルールに従って神経締めを行うことで更なる差別化を図るべく、漁協の講習会に参加して技術の習得を図る。</p> <p>●販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、漁獲物の販売促進活動計画を策定の上、これに基づき、町や観光協会が開催するイベントに積極的に参画するなどして、県外から世界遺産である白神山地観光に訪れる観光客に対し、試食や直接販売により、上記①、②の取組で漁獲された魚介類の品質の良さの宣伝に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	減速航行による燃油コスト縮減に努め、定置網漁業、一本釣り漁業共に基準年の3%を削減する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国）

4年目（平成34年度）

漁業収入向上のための取組	<p>●定置網・一本釣り漁業者と深浦漁協は、以下の収入向上の取組により、定置網漁業にあつては基準年から6.9%、一本釣り漁業にあつては5.4%の所得向上を図る。</p> <p>①定置網漁業</p> <p>漁協は、市場側からの要望を踏まえ、スズキ、ヒラマサ、サワラなどを対象として、「活魚、活け締め、神経締め方法に係るガイドライン」による講習会を開催し、漁業者は、それに参画して技術を修得し、魚体サイズ別に選別して、活魚、活け締め・神経締めに取り組む。また、活け締め・神経締めした水産物については、その後の魚体温度を一定温度となるよう下氷を敷いた発泡箱への箱詰作業を迅速に行うことを徹底する。今後は市場の動向を見つつ、選別基準等を見直すことで出荷割合を順次増加させ、所得の向上を図る。</p> <p>②一本釣り漁業</p>
--------------	--

	<p>漁業者は、当海域で漁獲されるウスメバルと秋季のサワラについて、漁獲後直ちに、海水氷と海水を1対3の割合で調製した海水を充填した魚倉に漬け込むことで、色味向上や魚体温度の一定温度以下での維持に取り組むほか、漁獲時に擦れのあった傷物の除外選別を徹底することで魚価の向上を目指す。さらに一定サイズ以上のウスメバル、サワラについては、船上での作業ルールに従って神経締めを行うことで更なる差別化を図るべく、漁協の講習会に参加して技術の習得を図る。</p> <p>●販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、漁獲物の販売促進活動計画を策定の上、これに基づき、町や観光協会が開催するイベントに積極的に参画するなどして、県外から世界遺産である白神山地観光に訪れる観光客に対し、試食や直接販売により、上記①、②の取組で漁獲された魚介類の品質の良さの宣伝に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	減速航行による燃油コスト縮減に努め、定置網漁業、一本釣り漁業共に基準年の4%を削減する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国）

5年目（平成35年度）

漁業収入向上のための取組	<p>●定置網・一本釣り漁業者と深浦漁協は、以下の収入向上の取組により、定置網漁業にあつては基準年から9.8%、一本釣り漁業にあつては9.4%の所得向上を図る。</p> <p>①定置網漁業</p> <p>漁協は、市場側からの要望を踏まえ、スズキ、ヒラマサ、サワラなどを対象として、「活魚、活け締め、神経締め方法に係るガイドライン」による講習会を開催し、漁業者は、それに参画して技術を修得し、魚体サイズ別に選別して、活魚、活け締め・神経締めに取り組む。また、活け締め・神経締めした水産物については、その後の魚体温度を一定温度となるよう下氷を敷いた発泡箱への箱詰作業を迅速に行うことを徹底する。今後は市場の動向を見つつ、選別基準等を見直すことで出荷割合を順次増加させ、所得の向上を図る。</p> <p>②一本釣り漁業</p> <p>漁業者は、当海域で漁獲されるウスメバルと秋季のサワラについて、漁獲後直ちに、海水氷と海水を1対3の割合で調製した海水を充填した魚倉に漬け込むことで、色味向上や魚体温度の一定温度以下での維持に取り組むほか、漁獲時に擦れのあった傷物の除外選別を徹底することで魚価の向上を目指す。さらに一定サイズ以上のウスメバル、サワラについては、船上での作業ルール</p>
--------------	--

	<p>に従って神経締めを行うことで更なる差別化を図るべく、漁協の講習会に参加して技術の習得を図る。</p> <p>●販売促進活動</p> <p>漁協及び漁業者は、漁獲物の販売促進活動計画を策定の上、これに基づき、町や観光協会が開催するイベントに積極的に参画するなどして、県外から世界遺産である白神山地観光に訪れる観光客に対し、試食や直接販売により、上記①、②の取組で漁獲された魚介類の品質の良さの宣伝に努める。</p>
漁業コスト削減のための取組	減速航行による燃油コスト縮減に努め、定置網漁業、一本釣り漁業共に基準年の5%を削減する。
活用する支援措置等	漁業経営セーフティネット構築事業（国）

(5) 関係機関との連携

<p>地元の魚を売り込むため、県・町・近隣漁協とも連絡を密にする。</p>

4 目標

(1) 所得目標

漁業所得の向上10%以上 定置漁業	基準年	平成25年度～29年度（5中3平均） ：漁業所得
	目標年	平成35年度： 漁業所得
漁業所得の向上10%以上 一本釣り漁業	基準年	平成25年度～29年度（5中3平均） ：漁業所得
	目標年	平成35年度： 漁業所得

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>基準年の漁業所得は、平成25年度から29年度の水揚げから最高値及び最小値を除く3年間を平均して水揚げ高から経費、減価償却費(一律10%)控除したものです。</p> <p>目標年の漁業所得の算出方法は次のとおりです。</p> <p>※両漁業種類共通</p> <p>(目標年の漁業所得) = (基準年の漁業所得) + ((活魚、活け締め、神経絞めの出荷割合増加による増額) - (神経締めにかかる経費)) + (燃油削減額)</p>

(3) 所得目標以外の成果目標

ウスメバルの神経締めによる出荷割合	基準年	平成30年度： 4.8%
	目標年	平成35年度： 30%

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

※詳細は計算根拠資料を参照。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	減速航行による燃油コスト削減に努める。